

# 佐賀ノリ大打撃 諫干汚水原因

## 漁民怒りの海上デモ



ノリ色落ち被害、養殖業者ら有明海で抗議デモ【読売1月7日】

国営諫早湾干拓事業(長崎県諫早市)で、潮受け堤防内側の調整池から淡水が有明海に排水されることにより、ノリの生育が悪くなったとして、佐賀県のノリ養殖業者ら約300人が7日、漁船約100隻を仕立てて有明海で海上抗議デモを行った。

今シーズンはノリの色落ち被害が広がっており、有明海全域に被害が及んだ2001年以来の大規模な抗議となった。養殖業者らは国や排水業務を管轄する長崎県に対し、過度の排水をやめるよう求めている。

漁船団は、佐賀県鹿島市沖から隊列を組み、約30キロを海上デモ。養殖ノリが色落ちした県有明海漁協大浦支所(太良町)の組合員、大鋸(おおが)武浩さん(39)は「色落ちは昨年から2年連続で売り物にならない。国は養殖ノリのシ-



「常時排水能力の強化」「大量排水の即刻中止！」を訴えるノリ漁民

ズンが終わり次第、速やかに潮受け堤防排水門の開門調査をしてほしい」と話した。  
佐賀県によると、同県西南部沿岸では昨年12月下旬から、ノリの生育に必要な栄養塩を摂取するプラシクトンが異常に増えた結果、養殖場の栄養塩が急速に減ってしまい、ノリが色落ちした。  
養殖業者らは、諫早湾に近い海域で被害が大きいため調整池から時々排出される淡水が原因と主張している。

### 開門調査ではつきりせよ

古川佐賀県知事

冬ノリ網の張り込み延期で緊急会議【NBCラジオ1月4日】

有明海で「冬ノリ」の網の張り込みが3度にわたって延期されたことを受け佐賀市の県有明海漁協で4日緊急会議が開かれた。

県・有明水産振興センターによると、発生している赤潮の原因は、単独ではこれまでに大量発生したことがない種類の植物プランクトンだということ。雨が少ないため漁場の栄養分が回復せずに、重度の色落ちも確認されている。加えて漁業者は栄養濃度の低下と諫早湾干拓事業との関連を指摘しており、会議でも「潮の状況はことしが最悪で諫早湾干拓事業の影響ではないか」という思いを払拭できない。「何らかの行動を起こしてほしい」という意見が相次いだ。  
諫早湾干拓堤防管理事務所によると、先月21日から29日の間に南部と北部にある排水門から合わせて4回、1回につき50万リットルほどが排水されたということ。漁業者からこの排水と海況の変化との関連を指摘する声を受け、古川知事はきょうの定例会見で、「中長期の開門調査をしていたが上で、はっきりさせることが求められる」と述べた。